

《 特集 》 地域連携・地域貢献

地域連携事業

近年、地方における少子高齢化、人口減少、財政状況の悪化等、地域社会を取り巻く環境が厳しくなっている中、大学を地域における重要な資源と位置付け、地域の活性化、地域の課題解決に向けて、「行政と大学」、「地域と大学」が連携して取り組んで行く動きが高まっており、さまざまな大学が地域等との連携を結んでいます。本学においては、次のとおり連携協定を締結しました。

長崎県市町村行政 振興協議会との 包括的連携に 関する協定

地域及び大学の発展と人材の育成に寄与することを目的として、平成26年9月5日に締結。連携事項は、①市町が行う地域振興に関すること、②大学が行う教育研究の推進に関すること、③市町職員及び学生等の人材育成に関すること、④そ

の他前条の目的を達するために必要な事項に関することの4項目。

連携の一環として、平成27年9月11日（金）に開催された『各市町村を対象とした大学の連携シークス説明会』（説明テーマ：地域課題（人口減少、産業振興等）解決に関連した各大学の研究、地方創生関連の取り組み、地域に焦点をあてた教育プログラム、市町と連携可能性のあるハード面の資源紹介等）に本学の地域連携センター長が参加し、各市町村対象に本学が提供できる学術的及び専門的支援を説明しました。

長崎市との 包括的連携に 関する協定

長崎市と本学が有する資源や機能等の効果的な活用を図りながら、幅広い分野で相互に連携・協力し、活力ある個性豊かな地域社会の形成・発展に寄与することを目的として、平成27年3月12日に締結。連携事項



6月5日 学生たちに語る田上市長

は、①個性を活かした交流の拡大に関すること、②長崎学の継承に関すること、③平和の発信と世界への貢献に関すること、④地域経済の活力の創造に関すること、⑤環境との調和に関すること、⑥安全・安心で快適な暮らしの実現に関すること、⑦ともに支え合い、いきいきと暮らせる地域社会の実現に関すること、⑧原爆被爆者の福祉の増進に



長崎市との協定締結（左）田上市長（右）片岡学長

長崎国際観光 コンベンション協会 との地域連携協定

関すること、⑨創造的で豊かな心の育成に関すること、⑩多様な主体による地域経営に関すること、⑪前各号に掲げるもののほか、本協定の目的を達成するために必要な事項の11項目。

連携の一環として、平成27年6月5日（金）「フレッシュマン・セミナー」で『長崎の課題』をテーマに、田上長崎市長にご講演いただきました。

長崎国際観光コンベンション協会（以下「コンベンション協会」と言う。）及び本学が、それぞれ企画・立案・実施する、行政、教育、研究の活動で、連携して取り組むことができる事項について、両者が連携して行うことを目的として、平成27年3月23日に締結。連携事項は、①行政事項で、コンベンション協会が企画・立案し、本学が教育、研究について実施できる事

項、②教育、研究について、
 本学が企画・立案し、コンベンション協会が協力できる事項の2項目。
 連携の一環として、平成28年度から、『長崎さるくガイド』を育成しているコンベンション協会と、長崎学に関する専門的な研究を有する本学が連携して『長崎さるくガイド』の養成に取り組みます。
 こうした動きの中、本学は、平成27年11月、平成27年度「私立大学等改革総合支援事業」【タイプ2・特色を発揮し、地域の発展を重層的に支える大学づくり】に採択されました。
 (総務部長補佐 藤田民子)



コンベンション協会との協定締結(左)川添会長(右)片岡学長

長崎純心大学 地域連携センター 活動報告

平成23年4月「ケアセンタール扇町」として開設された当センターは、平成27年7月に「地域連携センター」へと改称し、更なる地域貢献を目指して活動しています。改称に伴い全学科及び関係部署を含む委員による運営委員会を開催し、「地域連携グループ」「地域支援・活性化グループ」「生涯学習グループ」というグループの運営について検討しています。

「地域連携グループ」では、地域との連絡調整や自



長崎市の健康づくりイベント 秋フェス

治体・企業・NPO法人との連携等を行います。今年度は、長崎市のイベント「元気がいちばんたい！秋フェス」へのブース出展、長崎市高齢者すこやか支援課の「認知症カフェ」での講話、公益社団法人長崎犯罪被害者支援センターとの「犯罪被害者支援のための実務協議会」の開催を行っています。

また「地域支援・活性化グループ」では、相談対応や研修会等の産業メンタルヘルス支援を実施しています。働く人を支援するためには、人々が事業に携わっているその「場」を訪ねなければわからないことも多くあります。そのため、当センターでは事業場を訪問しての活動にも力を入れています。

そして「生涯学習グループ」では、実務に従事しておられる方を対象とした学習や技術支援のための事業を行っています。具体的には、長崎県こども女性障害者支援センターの児童家庭専門チームへの技術支援、本学大学院臨床心理分野修士生を対象とした研修等です。今年度は新たに実務従事者対象の公開セミナー「事



ストレスチェックに関する公開セミナー

業場におけるストレスチェック制度の効果的な運用のために、「被災地支援から学ぶ『支援』のかたち」も開催しました。

このような活動を通し、本学の卒業生や関係者のみなさま方を始めとした地域の方々や直接お話しする機会も増えています。その中には、本学でなければ行えない地域貢献へ期待されるお声も少なくありません。当センターは、これからも地域のみなさま方のお声に耳を傾けながら本学が地域に貢献できるような活動を行い、地域との連携を促進していきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

(地域連携センター

室長 田崎みどり)

***** 新しいマダレナ寮 *****



学生寮は、耐震問題により2012年から閉鎖していました。

その間、自宅外から通学する入学者の住居については、指定の不動産業者を増やし、指定アパートや一般住居の紹介を積極的に行ってまいりましたが、入学者の学生寮に対する希望は強く、この度、従前の学生寮敷地に新しく学生寮を建設し、平成28年度より入寮できるようになりました。名称は学生からの募集を行った結果、従前の学生寮と同じ名称で親しみ易い「マダレナ寮」となりました。寮室は、勉学に快適な環境を考慮し、個室タイプで、全室Wi-Fi・冷暖房設備などが整備されます。

大学では、集団生活を通して、円満な人格育成を促し、寮生皆さんの大学生活を支援していきたいと考えております。
 学生支援課長 田口知加子